

平成21年3月31日

第9回 設計コンサルタント業務等成果の向上に関する懇談会

参考資料 1 - 2

(第8回 資料1 - 1を再掲)

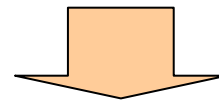
総合評価落札方式の実施状況について

平成20年度のデータによる集計

目次

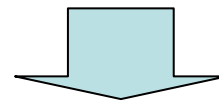
1	ガイドラインの概要	p.2 ~ p.8
2	全契約状況	p.9
3	総合評価落札方式による契約状況	p.10
4	落札者の状況	p.11 ~ p.13
5	評価項目毎の採用状況	p.14 ~ p.16
6	評価テーマの設定状況	p.17 ~ p.19
7	評価項目毎の得点率	p.20 ~ p.22
8	落札率の分布状況	p.23 ~ p.26
9	まとめ	p.27 ~ p.28

平成17年3月31日 公共工事の品質確保の促進に関する法律（法律第18号）



平成17年8月26日 公共工事の品質確保の促進に関する施策を総合的に推進するための基本方針
について（閣議決定）

「公共工事に関する調査・設計についても、工事と同様に発注関係事務の環境整備に努めるとともに、調査・設計の契約に当たっては、競争参加者の技術的能力を審査することにより、その品質を確保する必要がある。」



	工事	調査・設計等
包括協議	平成12年3月27日 「工事に関する入札に係る総合評価落札方式について」（蔵計第763号） 大蔵大臣 建設大臣	平成20年5月2日 「公共工事に関する調査及び設計に関する入札に係る総合評価落札方式について」（財計第1279号） 財務大臣 国土交通大臣
標準ガイドライン	平成12年9月20日 「総合評価落札方式の実施について」（建設省厚契発第30号） 建設大臣官房長 各地方整備局長	平成20年11月5日 「公共工事に関する調査及び設計に関する入札に係る総合評価落札方式の実施について」（国官第1354号、国地契第38号） 国土交通大臣官房長 各地方整備局長
運用ガイドライン	平成17年9月 「公共工事における総合評価方式活用ガイドライン」（公共工事における総合評価方式活用検討委員会）	平成20年8月 「建設コンサルタント業務等におけるプロポーザル方式及び総合評価落札方式の運用ガイドライン（暫定版）」（設計コンサルタント業務等成果の向上に関する懇談会） 平成21年3月 最終版の策定予定

懇談会等のこれまでの経緯

日程	懇談会	地方整備局等	業界団体等
H20年8月	第7回(8月12日) 運用ガイドライン(暫定版)の検討		
H20年9月		中旬 各地方整備局等への運用ガイドライン(暫定版)の通知、試行開始	
H20年12月		下旬 総合評価実施状況フォローアップ調査の実施	
H21年2月	第8回(2月26日) 総合評価落札方式の試行状況のフォローアップ 業界団体、地方整備局等の意見、要望の検討	上旬 地方整備局等への意見照会	中旬 業界団体ヒアリング
H21年3月	第9回(3月31日) 運用ガイドライン(最終版)の検討	下旬 運用ガイドライン(最終版)の業界団体、地方整備局への意見照会	
H21年4月以降		各地方整備局等へ運用ガイドラインの通知	

運用ガイドライン完成
本格運用開始

懇談会等のこれまでの経緯

【これまで：価格競争方式】

最も価格の低いものが落札（価格のみで決定）
 技術力が低いものでも落札でき、成果品の品質に懸念

財務省との包括協議成立
 （平成20年5月2日財計第1279号）

【今後：総合評価落札方式の導入で技術競争にシフト】

価格に加え技術を評価

総合評価点 = 価格点 + 技術点

（加算方式を採用）

価格点と技術点の配分 = 1:1 ~ 1:3（技術点60点：価格点20 ~ 60点）

平成17年度1件、平成19年度23件試行済、平成20年度本格導入

詳細設計、測量、地質調査、その他幅広い分野で採用。

技術点の配点例

- ・技術者資格等 : 技術者資格及び専門技術力
- ・技術者実績等 : 同種又は類似の実績
- ・業務成績・表彰 : 業務成績、表彰
- ・業務実施方針 : 業務理解度、実施手順
- ・技術提案 : 評価テーマに対する提案

配点計を60点に換算

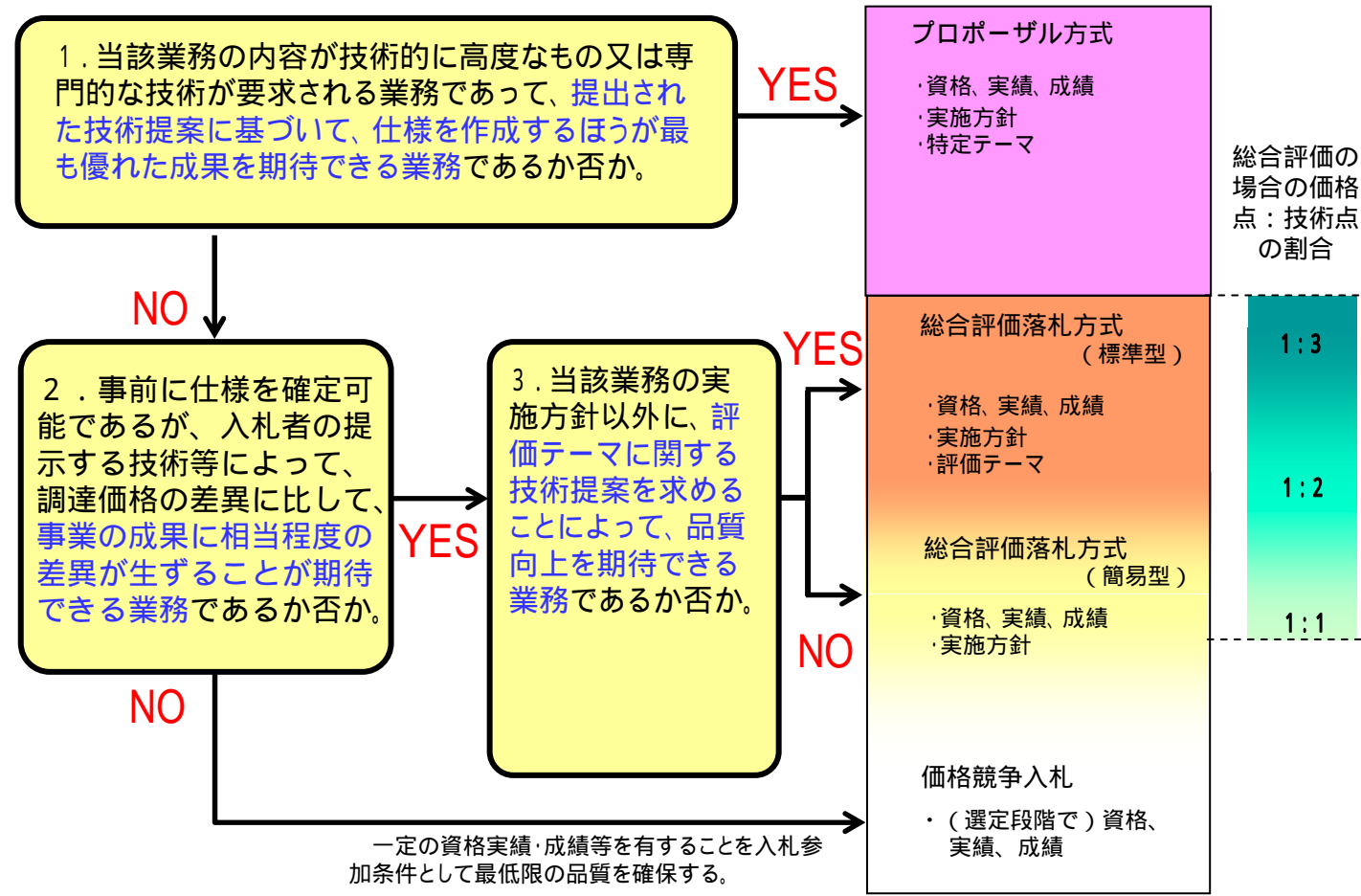
価格点 = 20 ~ 60 × (1 - 入札価格 / 予定価格)

ガイドラインの概要 1 (調達方式の選定フロー)

今後の設計コンサルタント業務等の調達にあたっては、以下の選定フローの考え方にに基づき調達を行う。

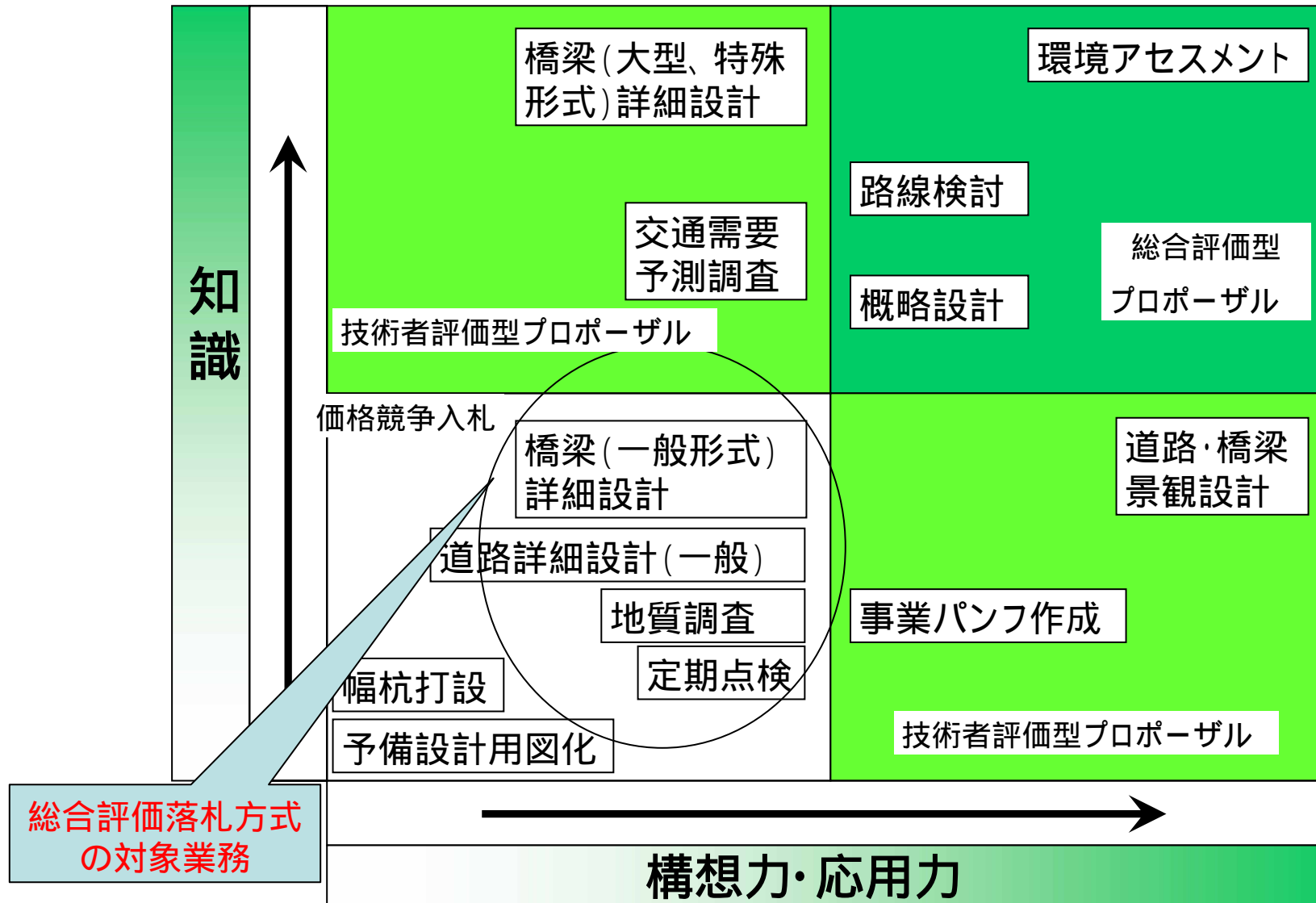
今後の調達方式の選定フロー

今後の調達方式



上記グラフの面積や長さはあくまでイメージであり、発注件数や発注額などのボリュームを示すものではない。

平成12年7月26日通達建設省技調発第119号「建設コンサルタント業務等の入札・契約手続の改善について」



ガイドラインの概要3 (技術評価の配点の基本的な考え方)

調達方式		選定段階の技術評価				特定・入札段階の技術評価				価格点： 技術点の設定														
A 現 行	ポータル方式 (総合評価型) の評価項目	(標準イメージ)				<ul style="list-style-type: none"> 技術提案：実施方針および特定テーマ ヒアリング：技術者の能力を直接確認する必要があることから必須 (標準例) <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td colspan="2">技術者の資格・実績等</td> <td>技術者の成績・表彰</td> <td colspan="2">実施方針</td> <td colspan="2">特定テーマ</td> </tr> </table> 60%				技術者の資格・実績等		技術者の成績・表彰	実施方針		特定テーマ		-							
	技術者の資格・実績等		技術者の成績・表彰	実施方針		特定テーマ																		
	ポータル方式 (技術者評価型) の評価項目	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>企業の資格・実績等</td> <td>企業の成績・表彰</td> <td>技術者の資格・実績等</td> <td>技術者の成績・表彰</td> </tr> </table> 成績重視				企業の資格・実績等	企業の成績・表彰	技術者の資格・実績等	技術者の成績・表彰	<ul style="list-style-type: none"> 技術提案：実施方針のみ ヒアリング：技術者の能力を直接確認する必要があることから必須 (標準例) <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td colspan="2">技術者の資格・実績等</td> <td>技術者の成績・表彰</td> <td colspan="2">実施方針</td> </tr> </table> 成績重視				技術者の資格・実績等		技術者の成績・表彰	実施方針		-					
	企業の資格・実績等	企業の成績・表彰	技術者の資格・実績等	技術者の成績・表彰																				
技術者の資格・実績等		技術者の成績・表彰	実施方針																					
B 今 後	ポータル方式 の評価項目	(配点イメージ)				<ul style="list-style-type: none"> 技術提案：実施方針および特定テーマ ヒアリング：技術者の能力を直接確認する必要があることから必須 (特定テーマ3つの場合のイメージ図) <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td colspan="2">技術者の資格・実績等</td> <td>技術者の成績・表彰</td> <td colspan="2">実施方針</td> <td colspan="2">特定テーマ</td> </tr> <tr> <td>40%</td> <td>15%</td> <td>15%</td> <td colspan="2">75%</td> <td colspan="2">60%</td> </tr> </table> 25%				技術者の資格・実績等		技術者の成績・表彰	実施方針		特定テーマ		40%	15%	15%	75%		60%		-
	技術者の資格・実績等		技術者の成績・表彰	実施方針		特定テーマ																		
40%	15%	15%	75%		60%																			
総合評価 落札方式 (標準型) の評価項目	(配点イメージ)				<ul style="list-style-type: none"> 技術提案：実施方針および評価テーマ ヒアリング：当面実施する (価格点：技術点 = 1 : 2、評価テーマ2つの場合の配点イメージ) <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td colspan="2">価格点</td> <td>技術者の資格・実績等</td> <td>技術者の成績・表彰</td> <td colspan="2">実施方針</td> <td colspan="2">評価テーマ</td> </tr> <tr> <td colspan="2">33%</td> <td>15%</td> <td>18%</td> <td colspan="2">67%</td> <td colspan="2">30%</td> </tr> </table> 1 : 2 ~ 1 : 3				価格点		技術者の資格・実績等	技術者の成績・表彰	実施方針		評価テーマ		33%		15%	18%	67%		30%	
価格点		技術者の資格・実績等	技術者の成績・表彰	実施方針		評価テーマ																		
33%		15%	18%	67%		30%																		
総合評価 落札方式 (簡易型) の評価項目	(配点イメージ)				<ul style="list-style-type: none"> 技術提案：実施方針のみ ヒアリング：当面実施する (価格点：技術点 = 1 : 1、評価テーマなしの場合の配点イメージ) <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td colspan="2">価格点</td> <td>技術者の資格・実績等</td> <td>技術者の成績・表彰</td> <td colspan="2">実施方針</td> </tr> <tr> <td colspan="2">50%</td> <td>25%</td> <td>25%</td> <td colspan="2">50%</td> </tr> </table> 1 : 1 ~ 1 : 2				価格点		技術者の資格・実績等	技術者の成績・表彰	実施方針		50%		25%	25%	50%					
価格点		技術者の資格・実績等	技術者の成績・表彰	実施方針																				
50%		25%	25%	50%																				

ガイドラインの概要 4 (評価項目と配点標準配分例)

プロポーザル方式については、ヒアリングを原則実施。総合評価落札方式(標準型・簡易型)については、H20は当面実施する。ヒアリングを通じた評価を「実施方針等」「特定テーマ(評価テーマ)に対する技術提案」の項目に反映する。実施方針等と技術提案の評価は、書面とヒアリングを概ね同程度のウェイトで評価する。

評価項目	評価内容	評価の着眼点	現行(本省通達標準例)		今後							
			プロポ (総合評価型)	プロポ (技術者評価型)	プロポ		総合評価(標準型)		総合評価(簡易型)			
					書面	ヒアリング	書面	ヒアリング	書面	ヒアリング		
予定技術者	管理技術者	資格・実績等	技術者資格等	4%	9%	10%	-	15%	-	25%	-	
		同種又は類似業務の実績	4%	9%								
		当該事務所、周辺での受注実績	-	(任意)								
		成績・表彰	同種又は類似業務の成績	4%	9%	15%	-	18%	-	25%	-	
		技術者表彰、業務表彰経験	2%	4%								
	手持ち業務金額及び件数	4%	4%	評価項目から除外(選定段階で評価している)								
担当技術者	上記管理技術者を準用	11%	22%	必要に応じ追加評価項目とする。 追加評価項目とする場合には、管理技術者の割合に包含する。								
照査技術者	上記管理技術者を準用	9%	22%									
ヒアリング	専門技術力の確認		1%	9%	「ヒアリング」項目は評価項目から除外し、ヒアリングを通じて、技術者の評価、提案内容の確認結果を「実施方針等」、「特定テーマ(評価テーマ)に対する技術提案」の項目に反映する。							
	専門知識の習得		2%	3%								
	業務への取り組み意欲		4%	0%								
実施方針等	業務理解度	目的、条件、内容の理解	2%	-	15%		30%		50%			
	実施手順	実施手順の妥当性	2%	-								
		業務量把握の妥当性	2%	-								
その他	重要事項の指摘	4%	-									
特定テーマ・評価テーマに対する技術提案	全体	全体的確性	特定テーマ間の整合性	4%	-	60%		37%		-	-	-
			与条件との整合	4%	-							
	的確性	キーワードの網羅	4%	-								
		事業難易度の考慮	2%	-								
		説得力	2%	-								
	実現性	提案内容の裏付け	2%	-								
		利用予定資料の適切性	2%	-								
		高度の検討・解析手法	2%	-								
	独創性	既存分野の統合化提案	2%	-								
		特定(評価)テーマ2	実現性、的確性、(独創性)について上記を準用	9%	-							
特定(評価)テーマ3	実現性、的確性、(独創性)について上記を準用	9%	-									
参考見積	業務コストの妥当性		(確認のみ)		業務規模と大きく乖離がある場合は非特定							
技術評価の配点割合 合計			100%	100%	100%		100%		100%			

ヒアリングでは、提案企業の技術者の評価、提案内容の確認を行う。 : 標準評価項目 : 追加評価項目

建設コンサルタント業務の契約状況

建設コンサルタント業務等の契約状況
 ・建設コンサルタント業務等の発注件数は13,210件。
 うち、総合評価落札方式は317件(2.4%)。対前年比で約14倍に増加。

地方整備局等(港湾空港除く)における契約状況

(件数)

契約方式	H19年度	H20年度 (12月累計)
価格競争	(51.5%) 8,910	(46.7%) 6,165
総合評価落札方式	(0.1%) 23	(2.4%) 317
プロポーザル方式	(29.5%) 5,112	(46.5%) 6,143
特命随意契約	(18.9%) 3,266	(4.4%) 585
計	(100%) 17,311	(100%) 13,210

H20年度は速報値

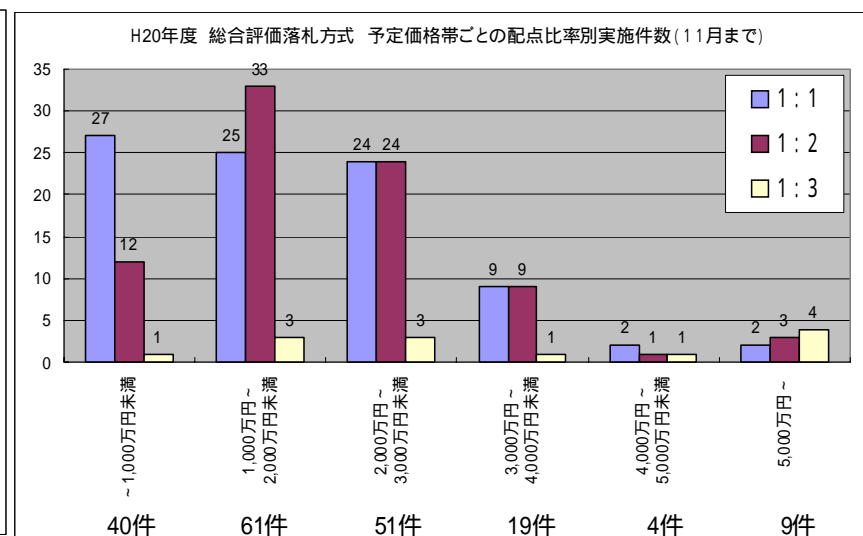
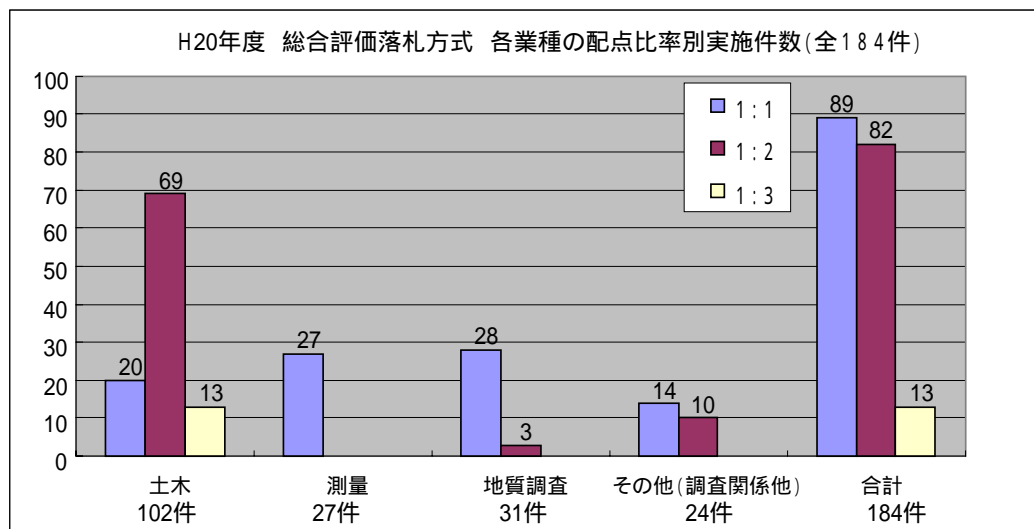
地方整備局等調べ

5業種(土木、測量、地質調査、建築、補償)

総合評価落札方式による契約件数(概要)

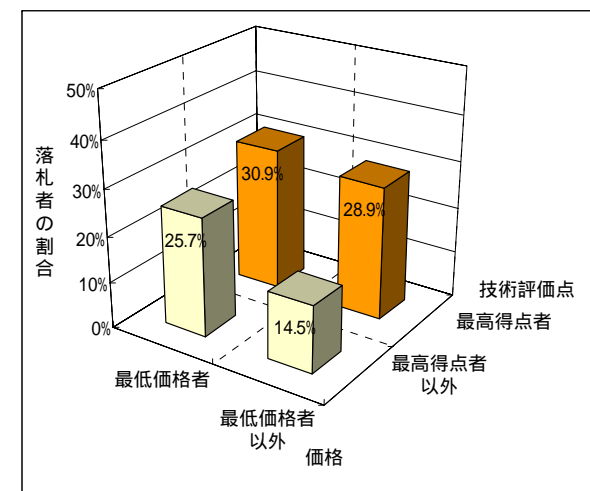
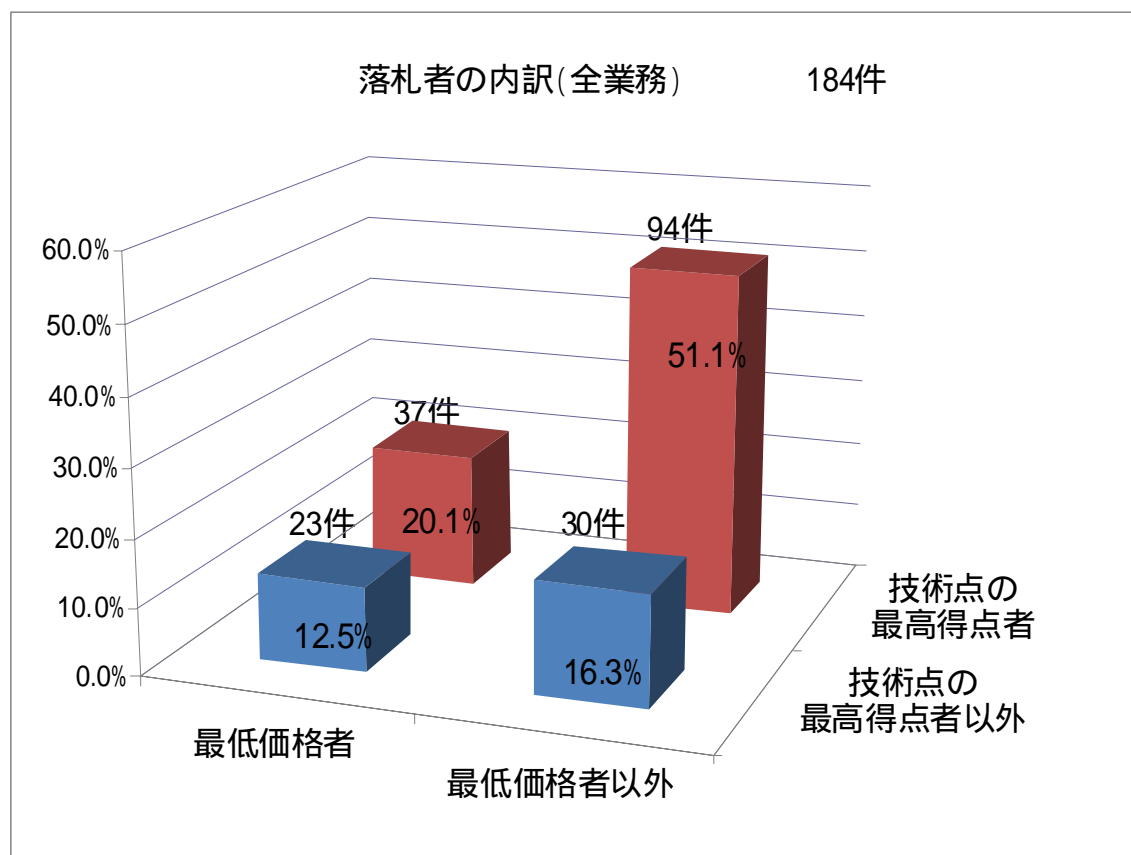
総合評価落札方式による契約状況

- ・平成20年度総合評価落札方式317件(12月末まで)のうち、発注者支援業務等を除く**184件を調査**。
- ・業種別内訳は、土木102件(55.4%)、測量 27件(14.7%)、地質調査31件(16.8%)、その他24件(13.0%)。
- ・価格帯の内訳は、4,000万円未満が**171件で全体の約9割**を占める。
- ・価格と技術の比率別では、1:1が89件(48.4%)、1:2が82件(44.6%)、1:3が13件(7.1%)であり、1:1と1:2両方で9割以上を占める。



落札者の状況(全体)

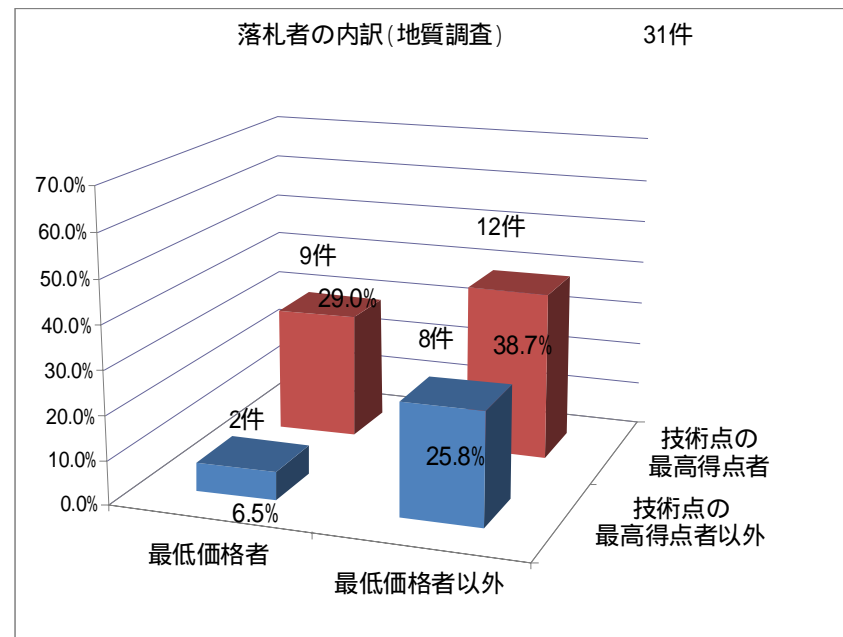
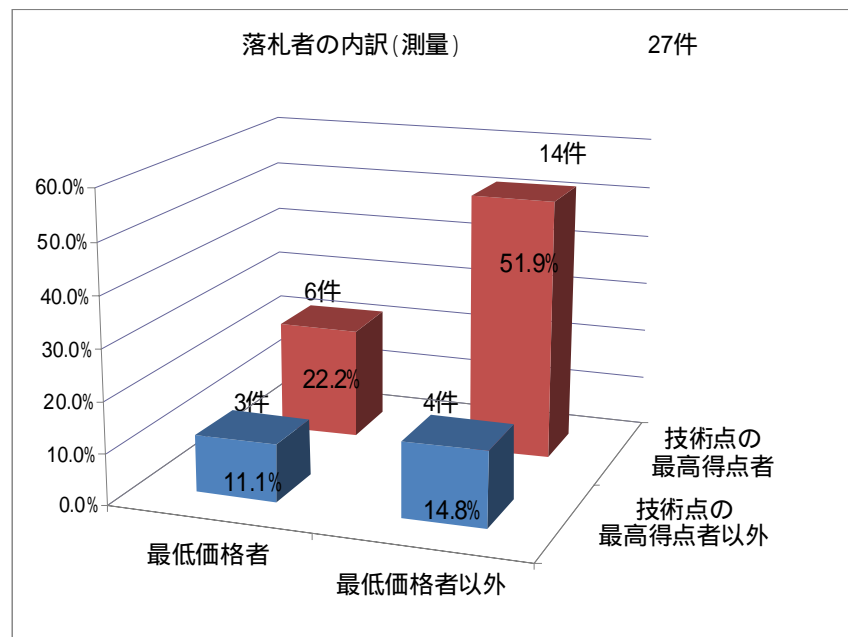
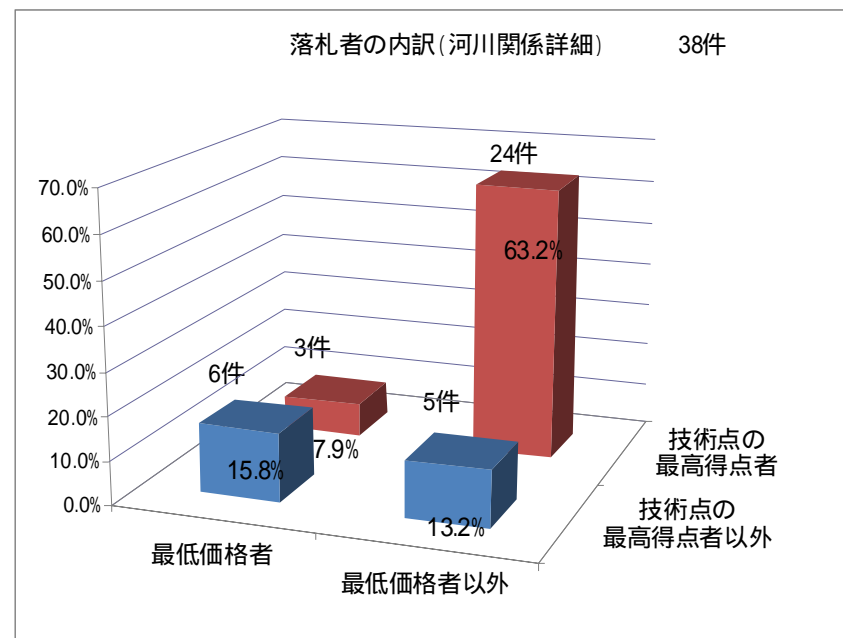
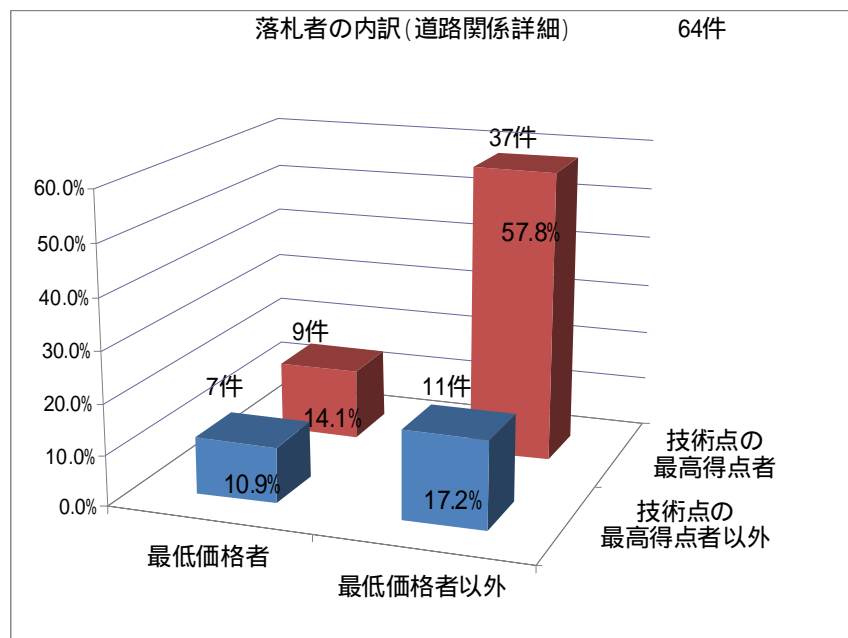
- ・技術点の最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合は、94件(51.1%)であり、過半数を占める。
- ・最低価格者を含め、技術点の最高得点者が落札した割合は131件(71.2%)であり、**技術点による競争が優位な結果**となっている。



参考

平成19年度における、工事の総合評価落札方式の落札者の内訳

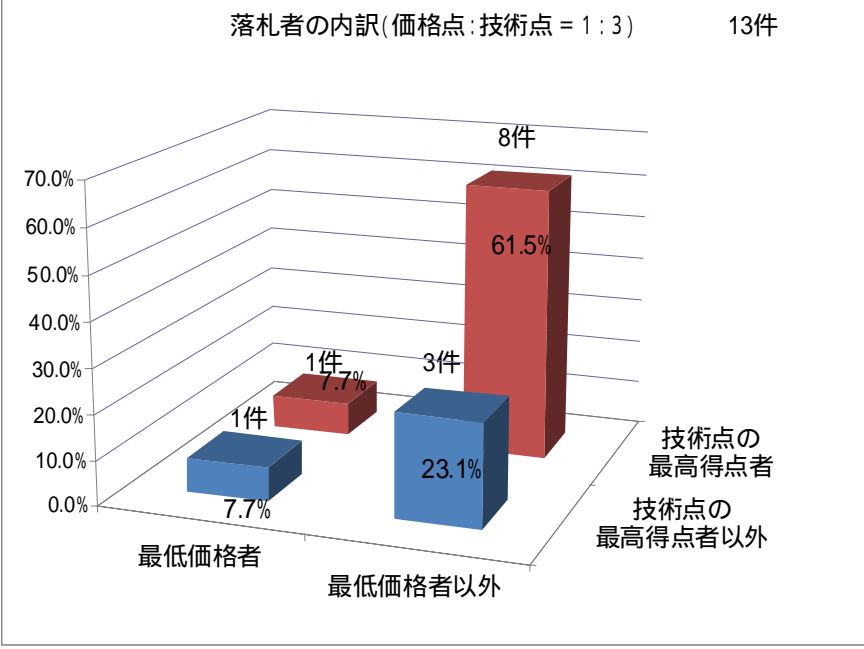
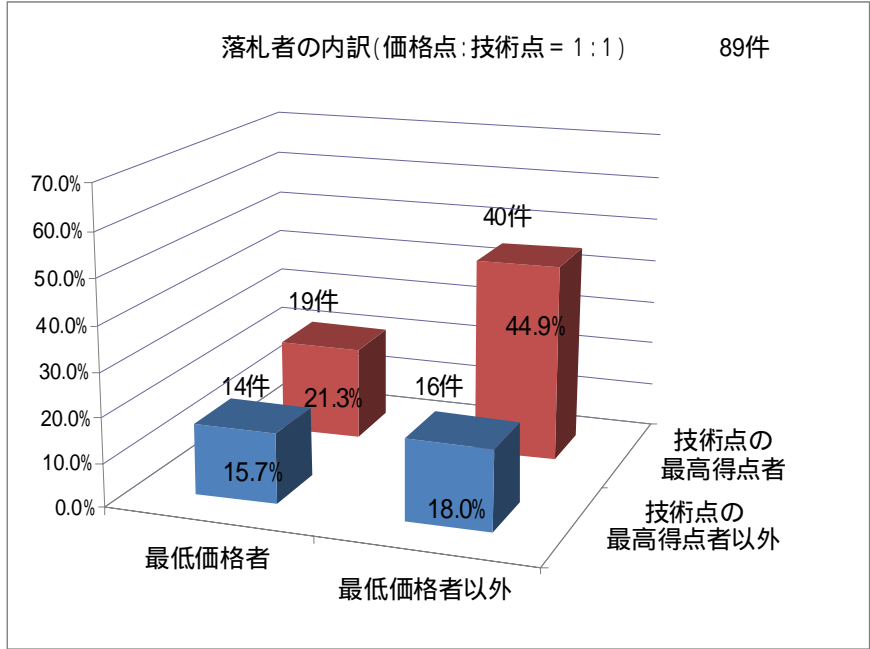
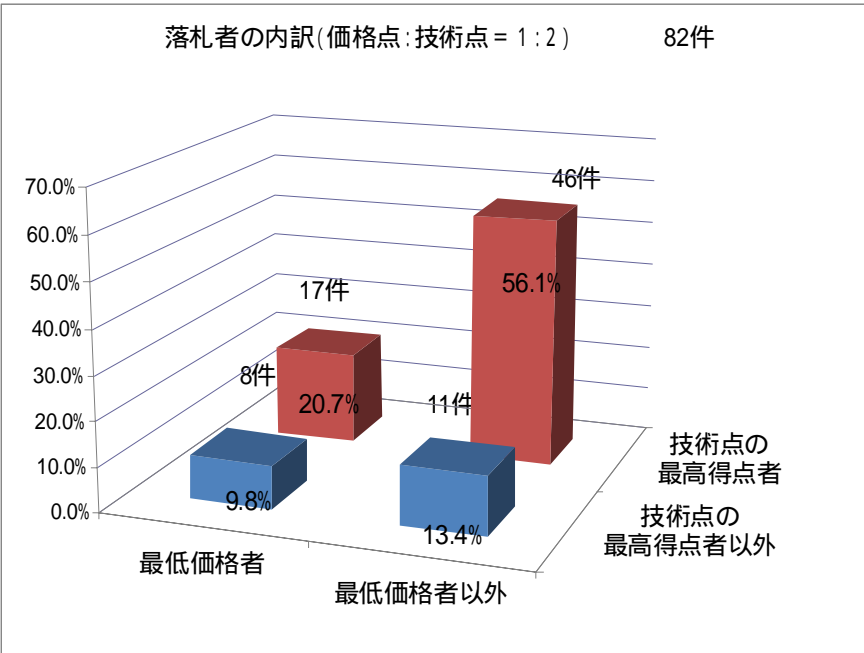
落札者の状況(業種別)



落札者の状況 (比率別)

・全比率において、技術点の**最高得点者が落札した割合は6割を超えている。**

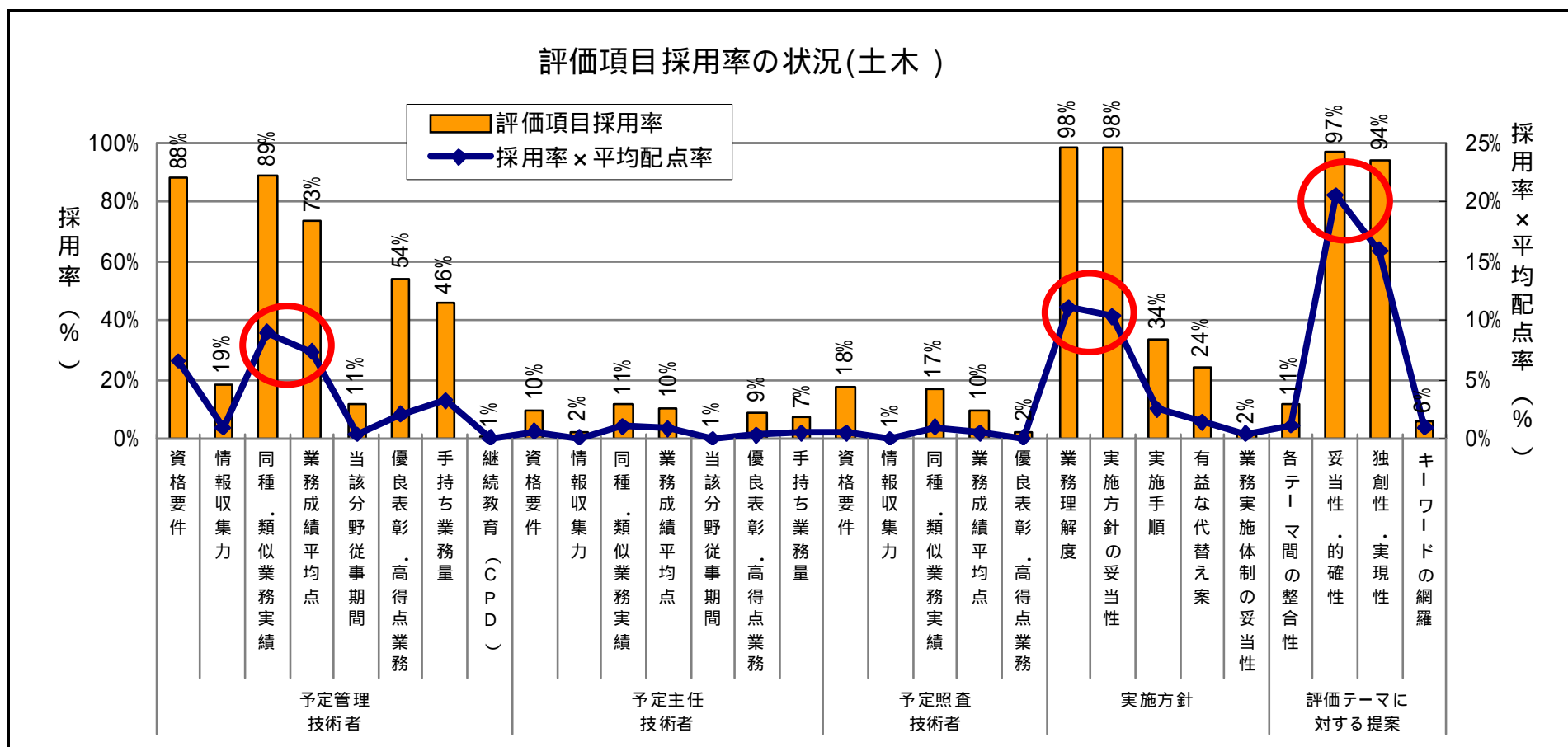
・技術点の割合が高くなると**最低価格者が落札した割合は、37.0%から15.4%に減少している。**



評価項目毎の採用状況(土木)

・土木分野における技術評価項目の採用状況は、主として「**予定管理技術者**」、「**実施方針**」、「**評価テーマに対する提案**」に重点が置かれている。

・配点率まで勘案すると「**評価テーマに対する提案**」が最も大きい。

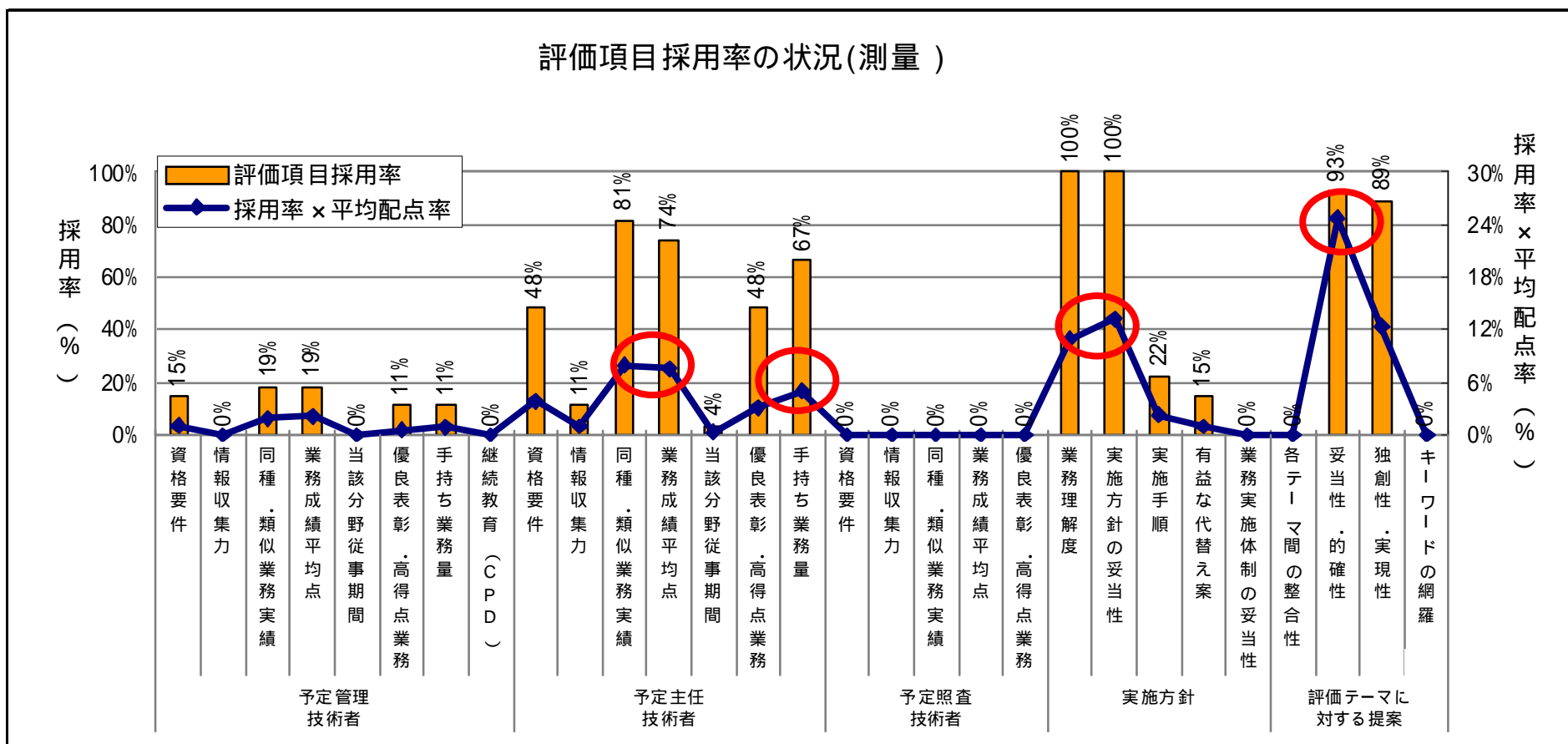


評価項目毎の採用状況(測量)

・測量における技術評価項目の採用状況は、主として「**予定主任技術者**」、「**実施方針**」、「**評価テーマに対する提案**」に重点が置かれている。(測量には照査はない)

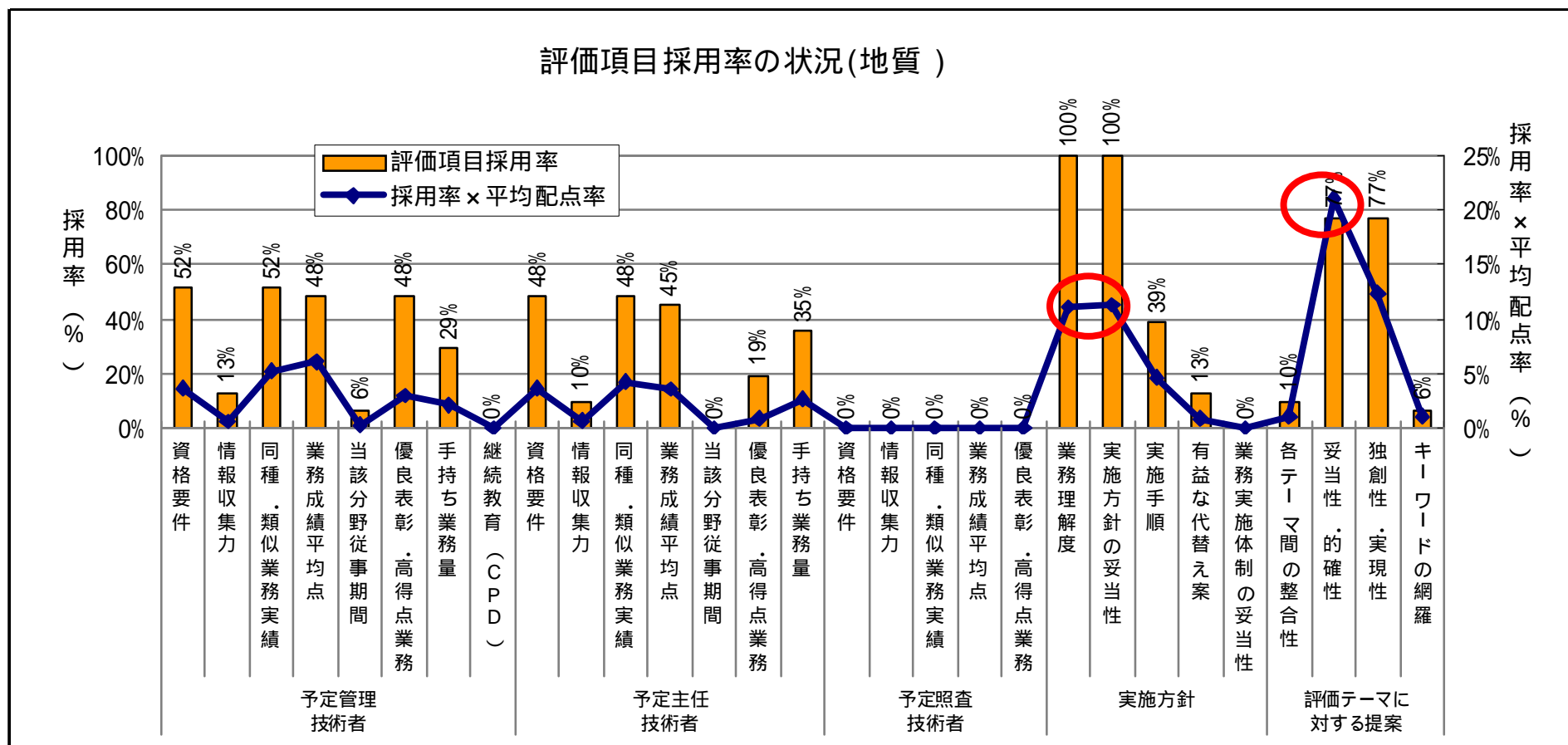
土木と比較して、「**予定管理技術者**」より「**予定主任技術者**」に重点を置いて評価している。

・配点率まで勘案すると土木と同様「**評価テーマに対する提案**」が最も大きい。



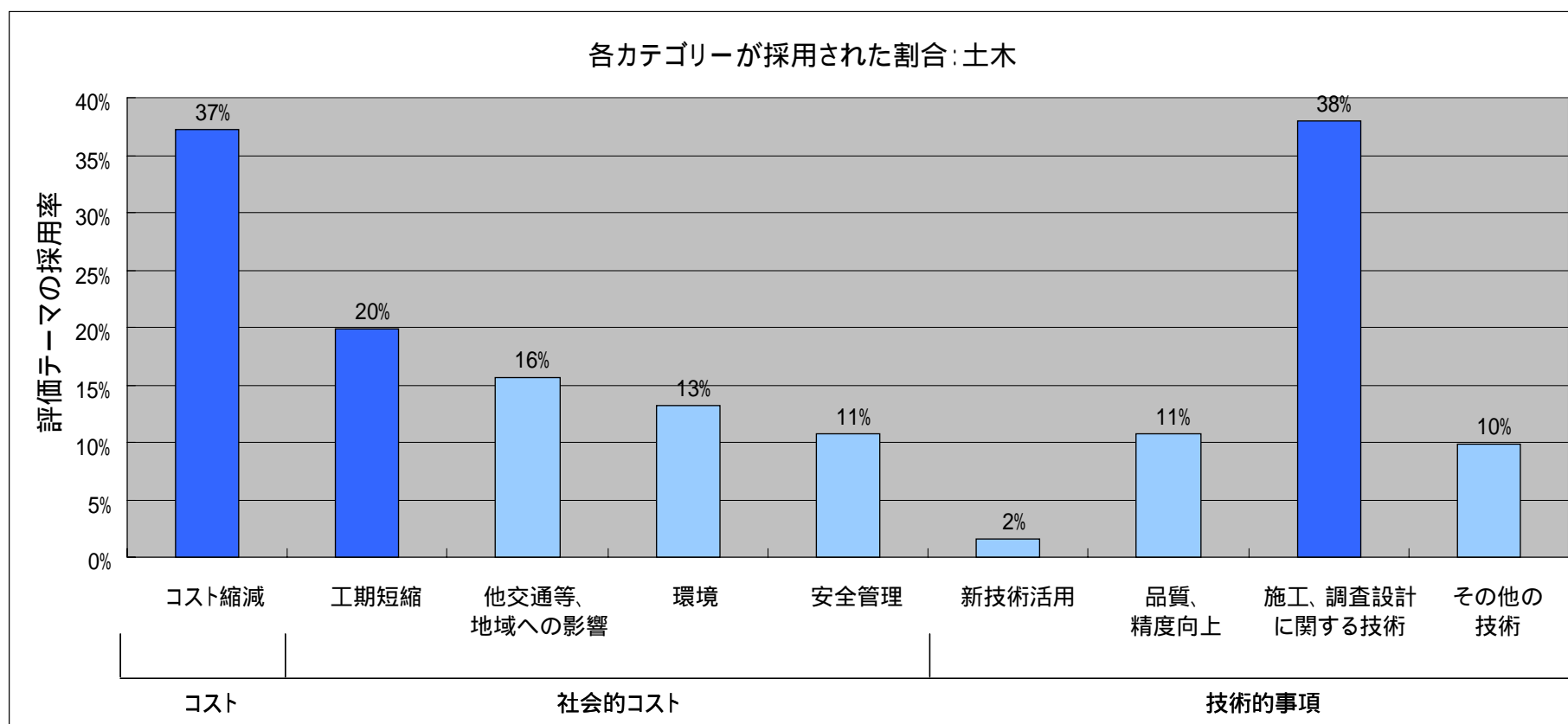
評価項目毎の採用状況(地質調査)

- ・地質調査における技術評価項目の採用状況は、「予定照査技術者」を除き、全体にまんべんなく評価項目が利用されている。(地質調査には照査はない)
土木、測量と比較して、技術者に対する評価が低い。
- ・配点率まで勘案すると土木と同様「評価テーマに対する提案」が最も大きい。



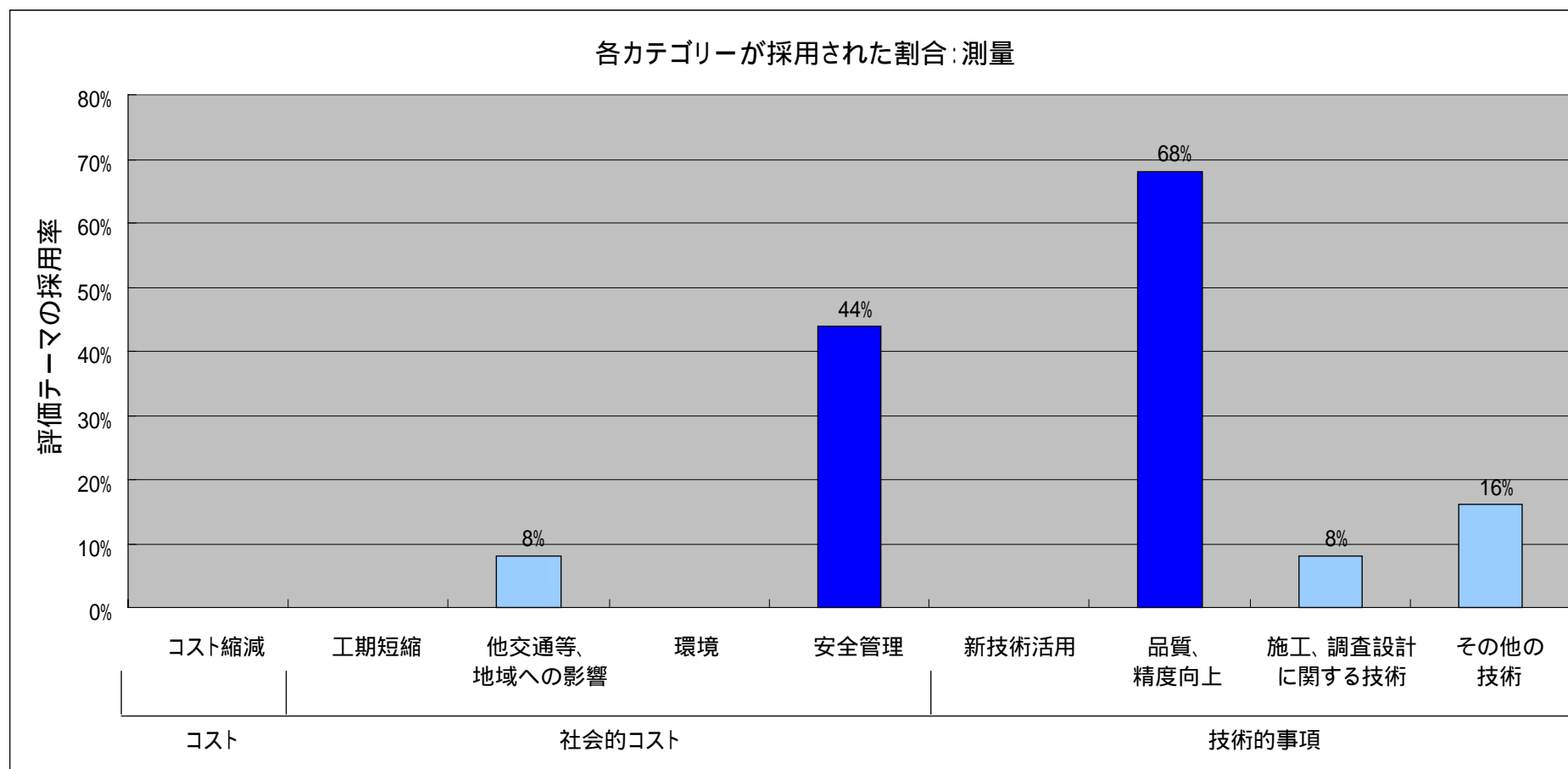
評価テーマの設定状況(土木)

・土木分野における評価テーマは、「コスト縮減」(37%)、「施工、調査設計に関する技術」(38%)、「工期短縮」(20%)が多い



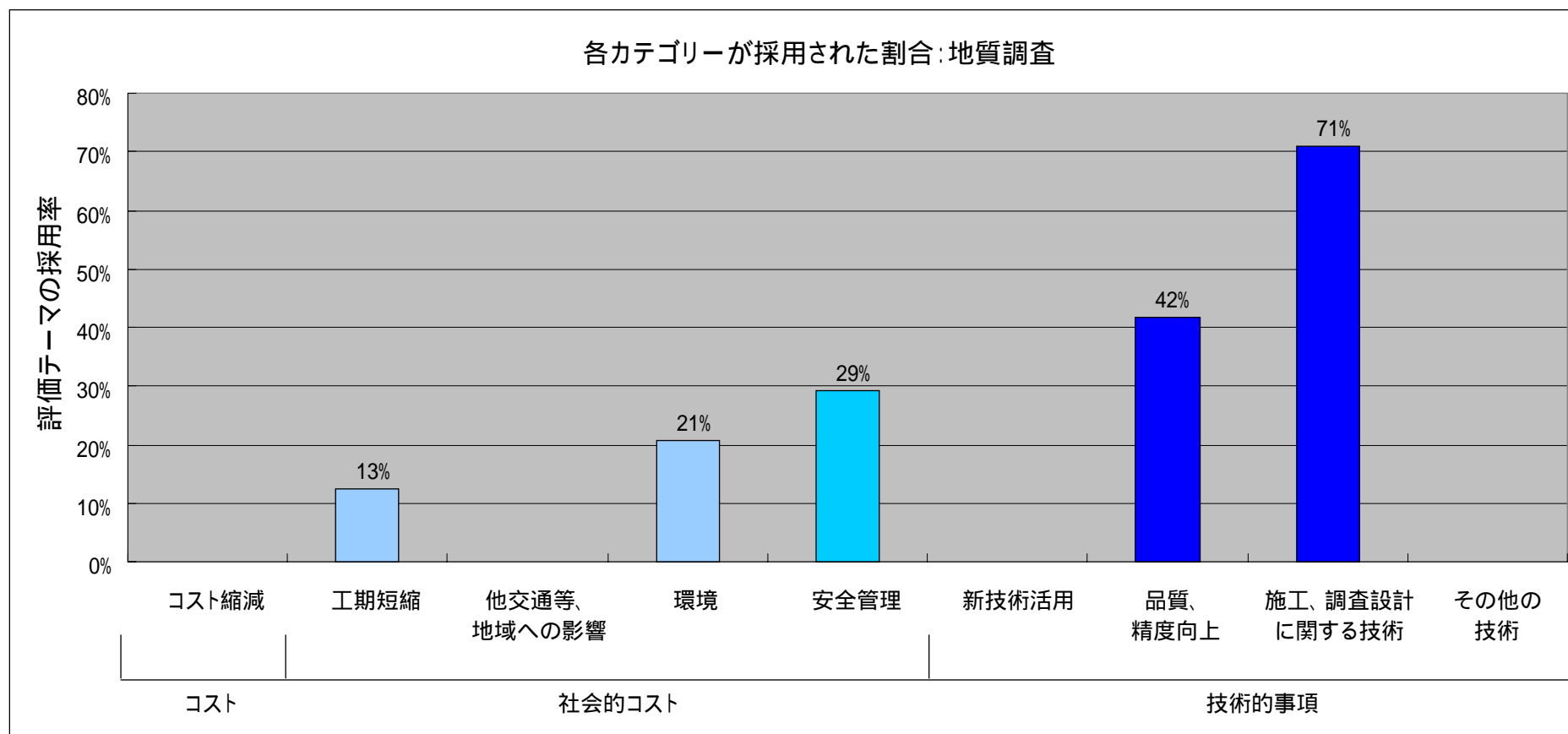
評価テーマの設定状況(測量)

・測量における評価テーマは、「品質・精度向上」(68%)、「安全管理」(44%)が多い



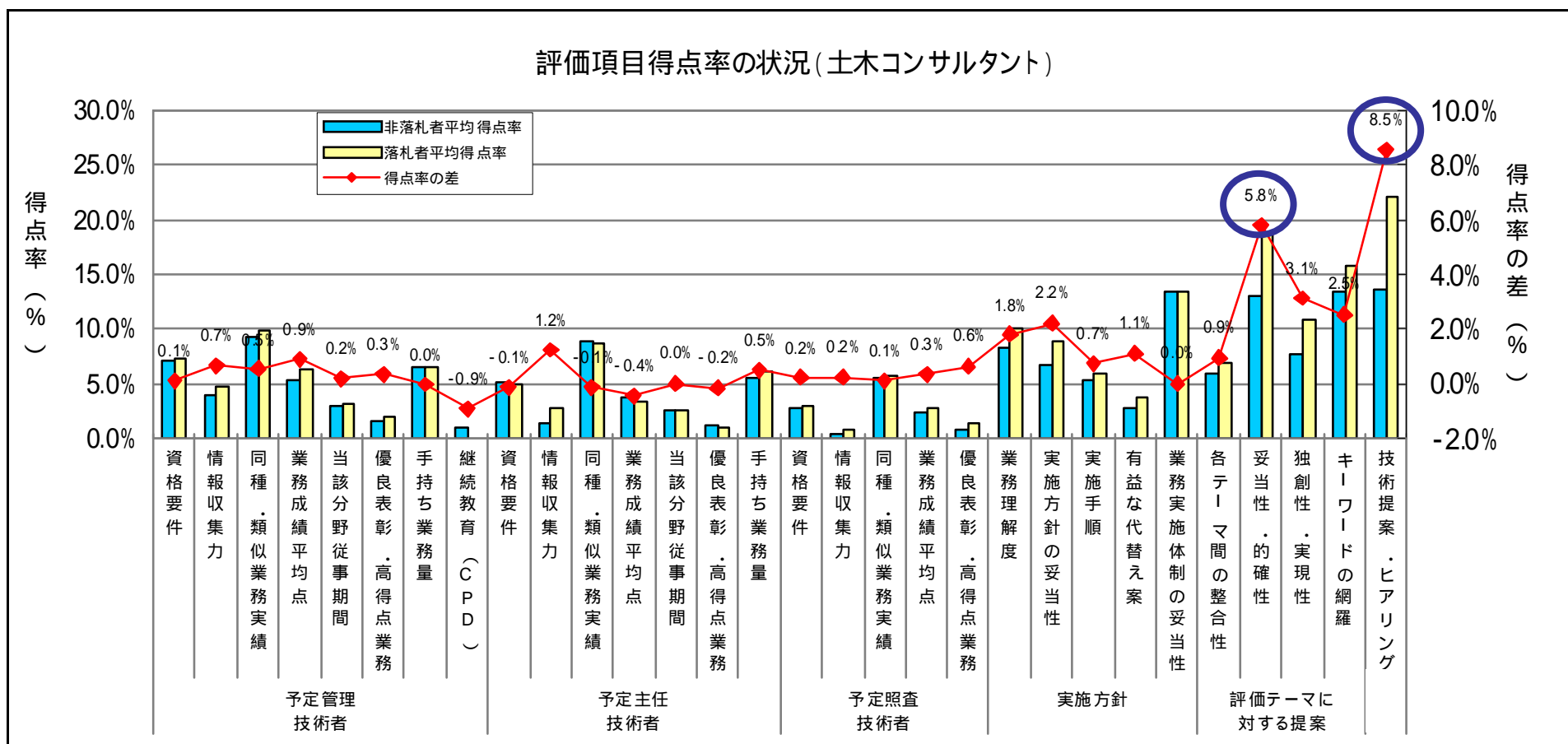
評価テーマの設定状況(地質調査)

・地質調査における評価テーマは、「施工、調査設計に関する技術」(71%)、「品質、精度向上」(42%)が多い



評価項目毎の得点率(土木)

・土木分野における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「評価テーマに対する提案」において差が生じている。
 一方、「技術者」の評価では大きな差は生じていない。

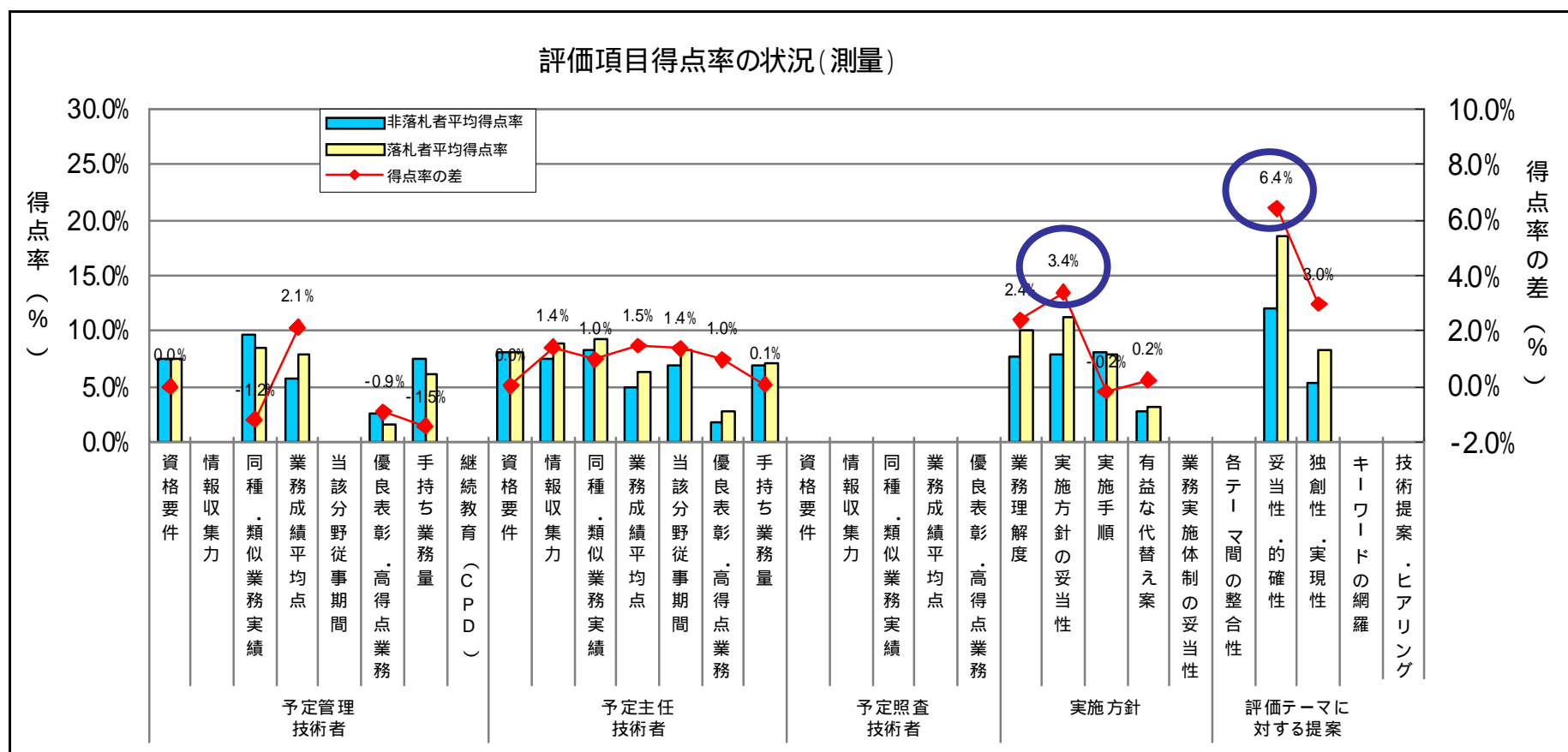


得点率は、満点に占める割合を示す。

評価項目毎の得点率(測量)

・測量における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「評価テーマに対する提案」において差が生じている。

土木と比較して、「技術者」や「実施方針」の評価でも差が生じている。

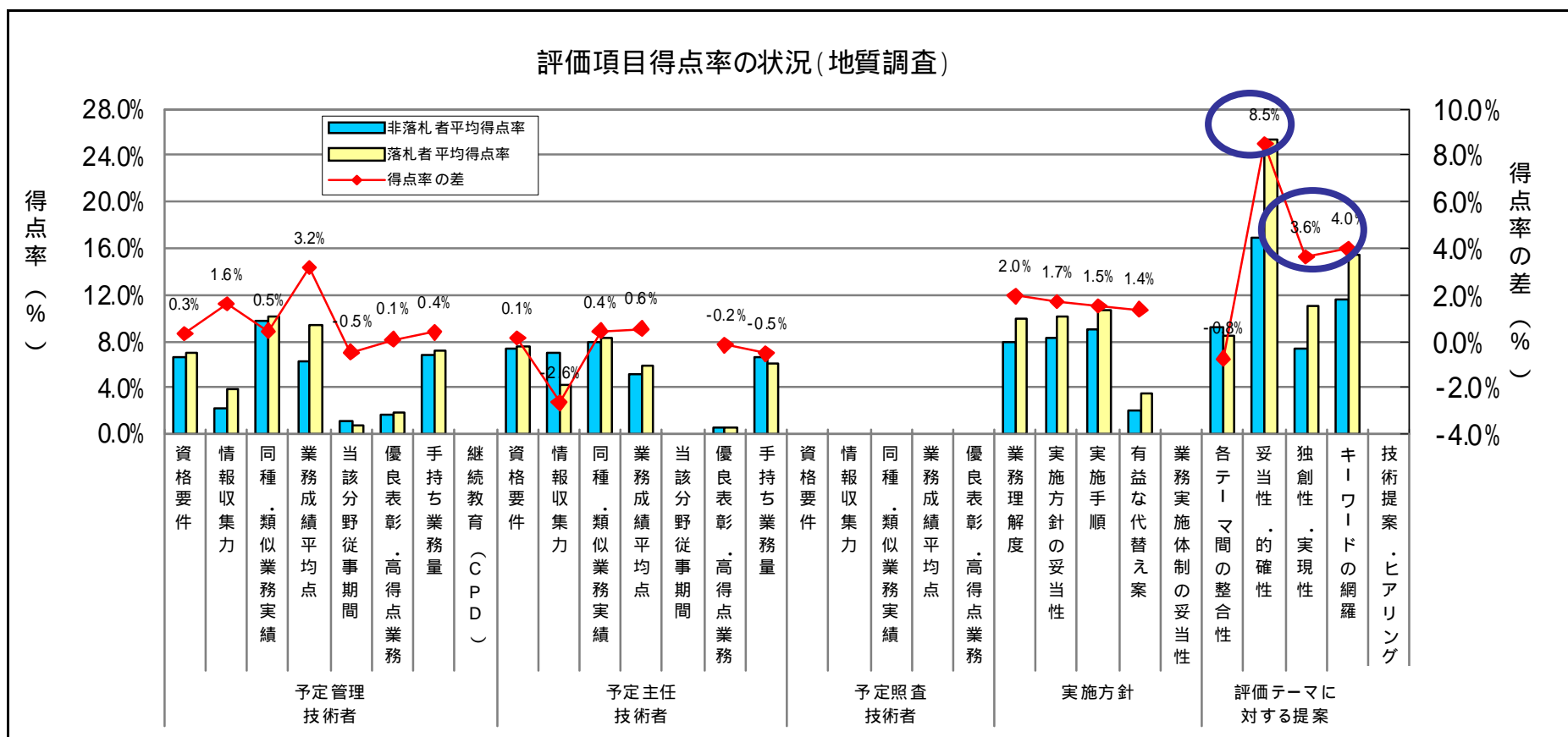


得点率は、満点に占める割合を示す。

評価項目毎の得点率 (地質調査)

・地質調査における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「評価テーマに対する提案」において差が生じている。

土木と比較して、「技術者」や「実施方針」の評価でも差が生じている。

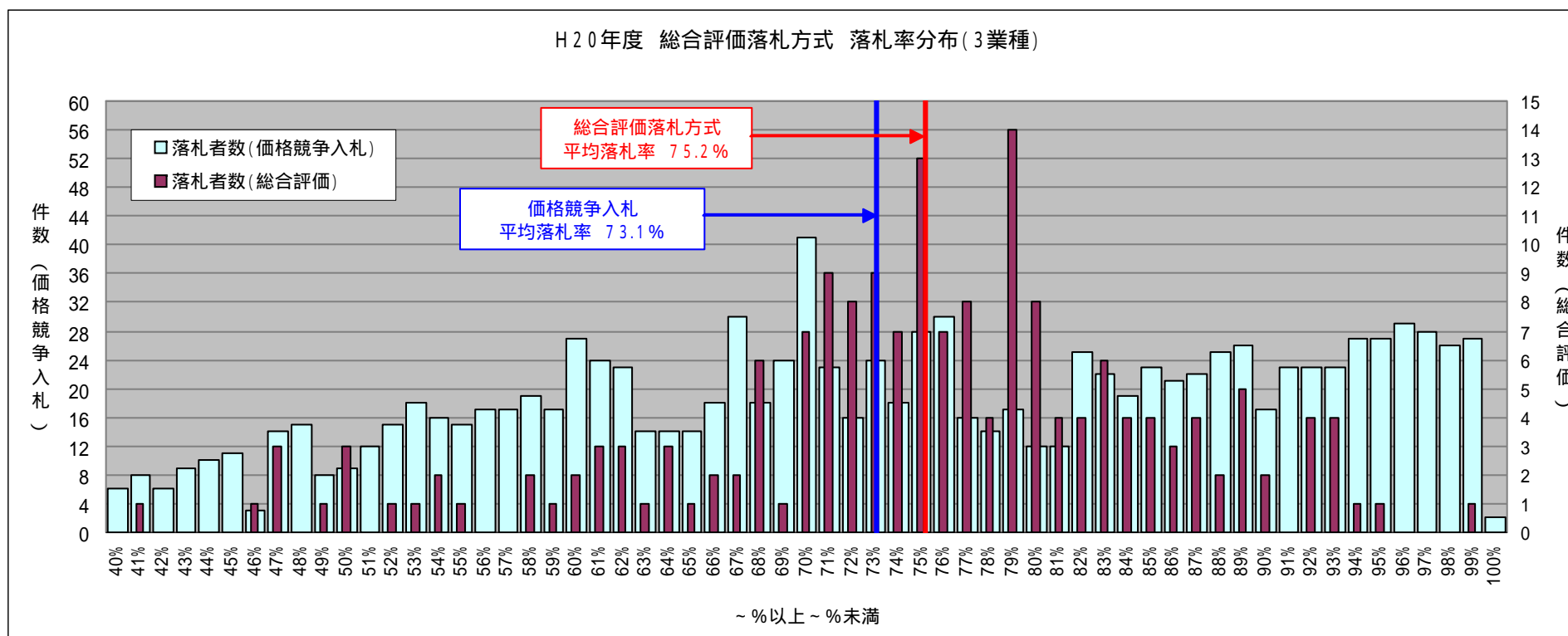


得点率は、満点に占める割合を示す。

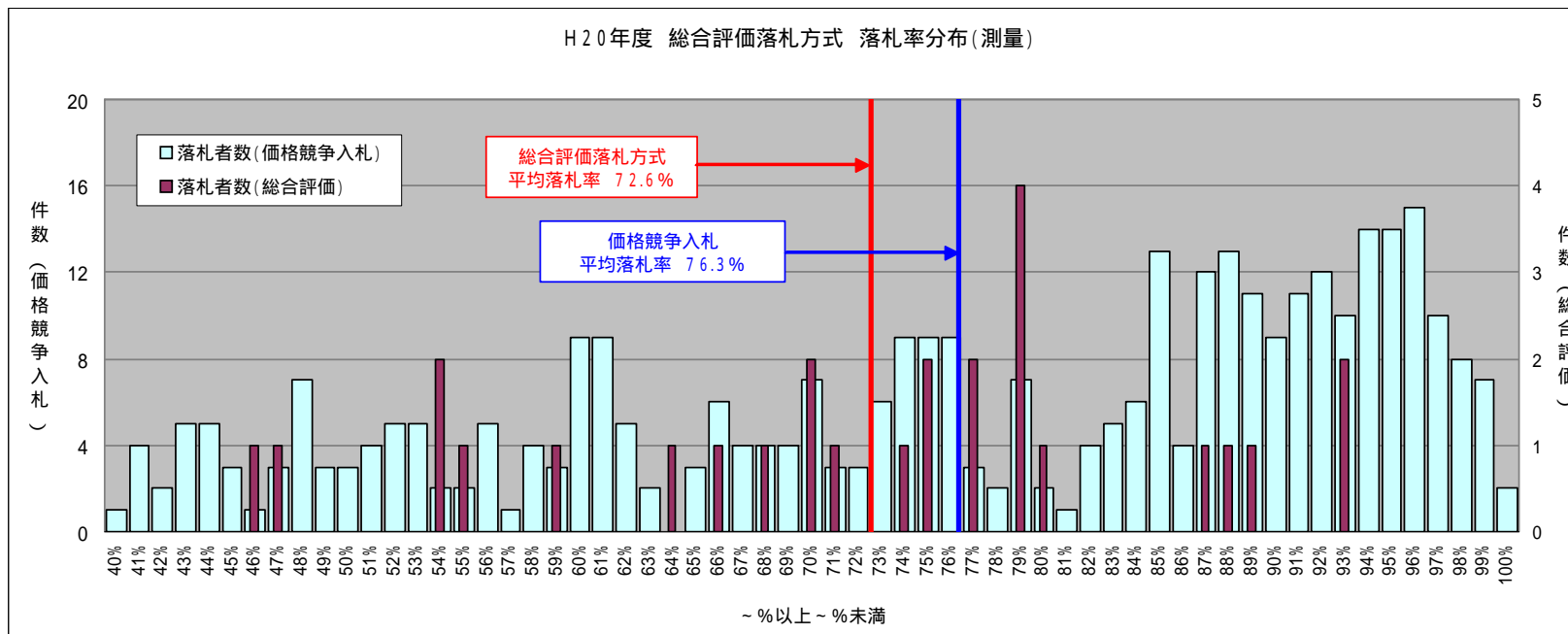
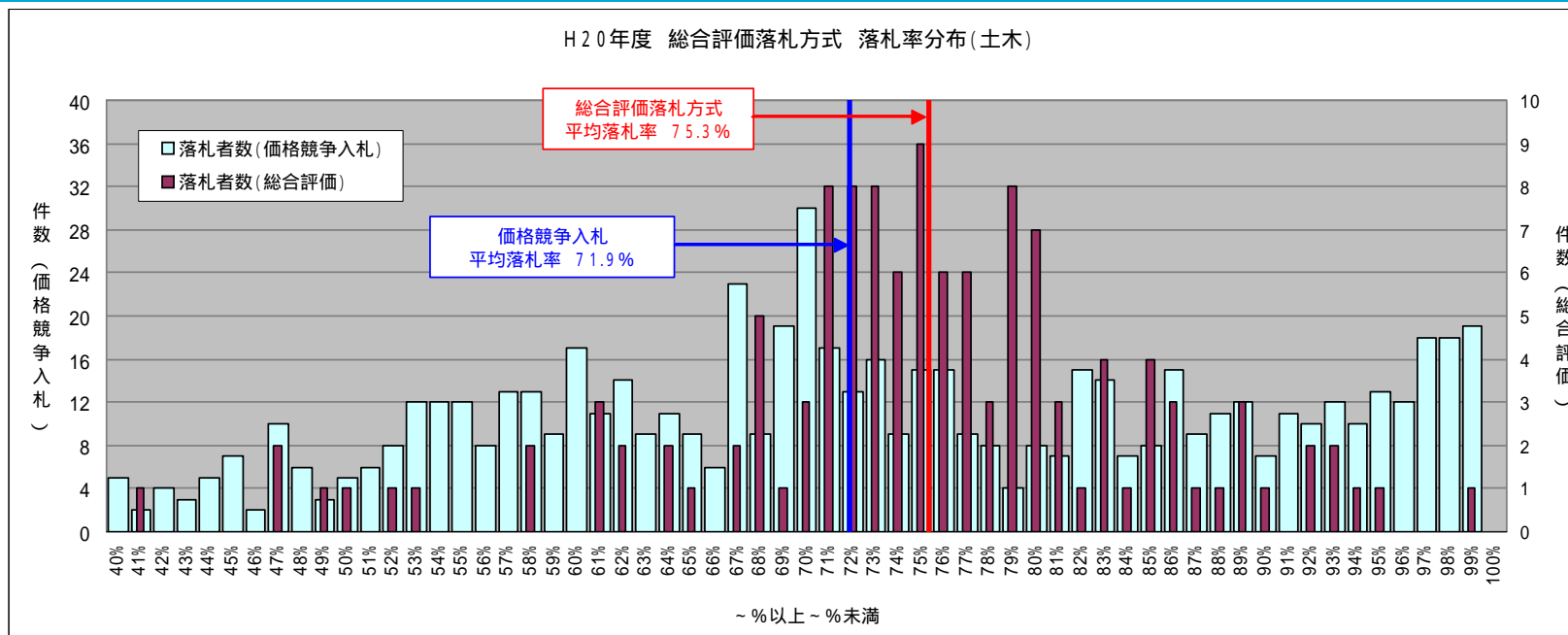
落札率の分布状況

価格競争と総合評価落札方式との比較

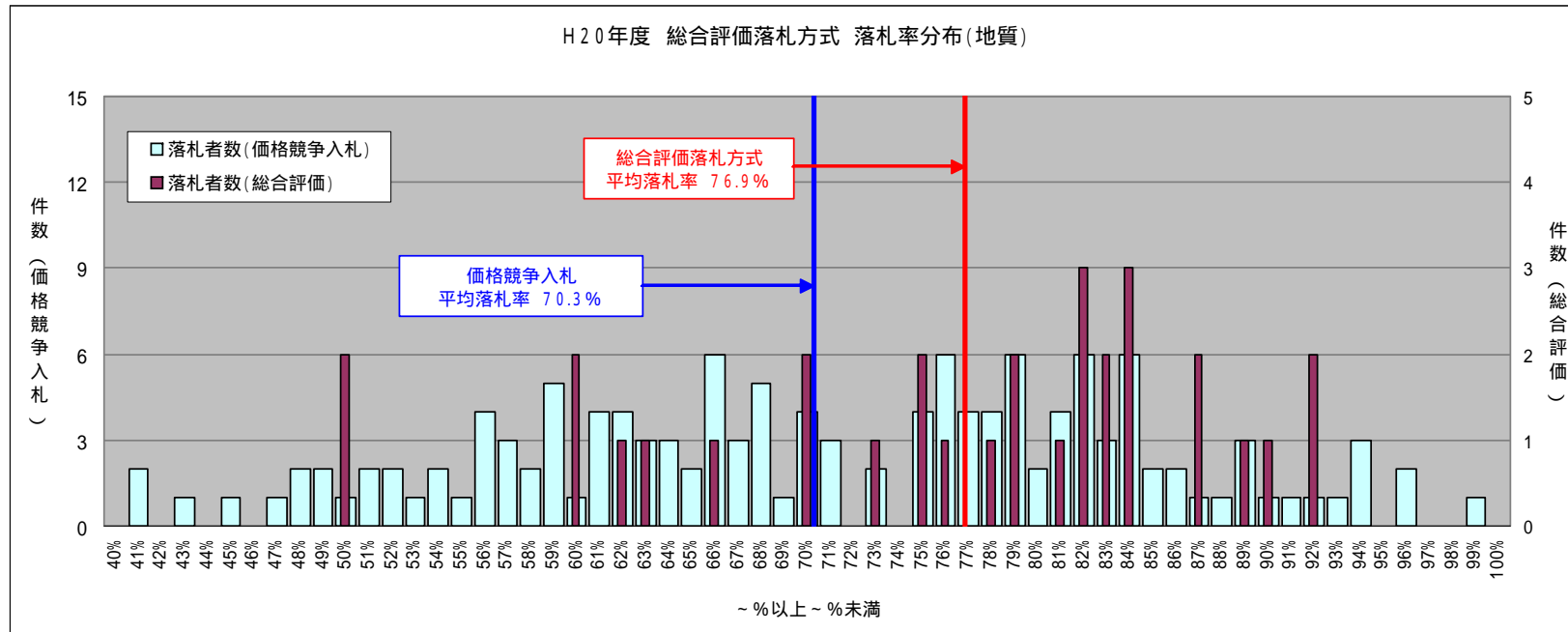
- ・平均落札率は、総合評価落札方式(75.2%)のほうが価格競争方式(73.1%)と比較して**2.1ポイント高い**。
- ・落札率の分布状況を価格のみの競争と比較すると、総合評価落札方式の方がおおむね70%未満の落札割合が低い一方、おおむね90%以上の落札率の割合も低く、**70%~90%に集中した分布状況**である。



落札率の分布状況 (業務別)



落札率の分布状況 (業務別)

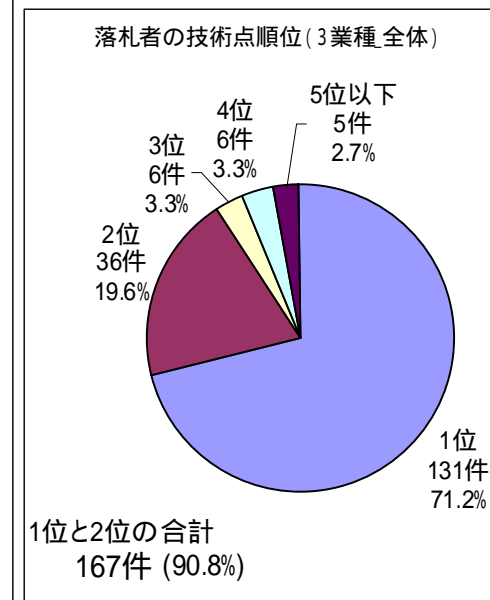
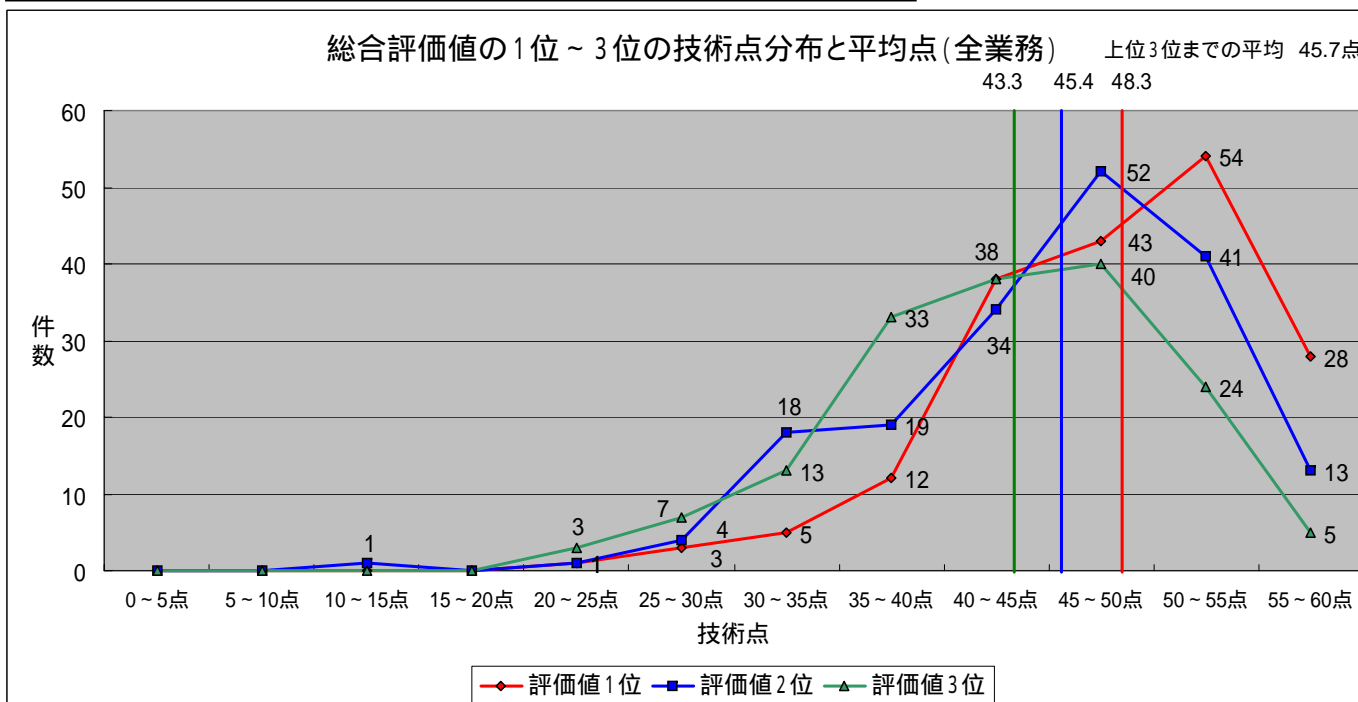
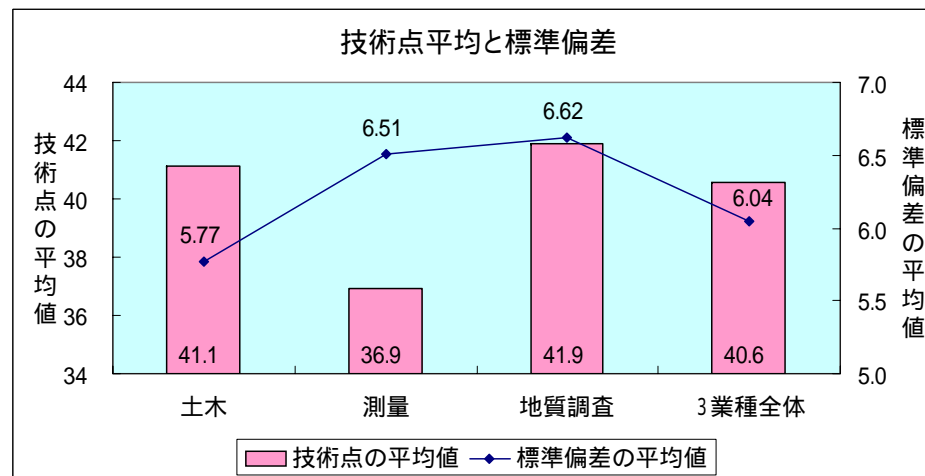


落札者と評価値が2位、3位の技術点分布

・落札者と評価値(評価点)が2位、3位の点数を比較すると、その差はそれぞれ2.9点、5.0点となっており、**全体の1割程度の中で3者の競争が行われている。**(左下図)

・技術点順位が1位又は2位の者が9割以上落札しており、**高いレベルで競争が行われている。**(右下図)

・土木分野の標準偏差が、他の業種に比べて小さく、**技術点の分布が狭い範囲にとどまっている。**(右上図)



1. 価格と品質による総合的な評価について

・調査件数184件中、技術点の最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合は51.1%、最低価格者を含め技術点の最高得点者が落札した割合は71.2%であり、**技術競争が優位**な結果となった。

・価格点と技術点の比率について、技術点の割合が高くなるほど最低価格者が落札した割合が37.0%から15.4%に減少しており、**技術点が高いほど技術競争が優位**な結果となった。

・落札率の分布状況について、価格のみの競争と比較すると、平均落札率が2.1ポイント高く、また落札率70%未満の落札割合が低いものの、総じて大きな差は現れていない。

2. 評価項目の採用、得点状況について

・評価項目は、**全業種とも「実施方針」、「評価テーマに対する提案」に重点を置く一方、「技術者」の評価はこれらに比べてやや低い状況にある。**

・評価テーマの内、**全業種とも「品質・精度向上」、「施工・調査設計に関する技術」を採用割合が多い。**これに加えて土木分野では「コスト縮減」、「工期短縮」を採用する割合も多い。

・**落札者と非落札者の得点状況を比較すると「評価テーマに対する提案」において最も差が生じている。**

・**技術点順位が1位又は2位の者が9割以上落札している。**落札者と総合評価点が2位、3位の技術評価点数を比較するとその差の**平均5点程度の中で競争しており、上位3位までの平均点も45.7点。**高いレベルで競争が行われている。